

外 来

看護師長 町田 裕子

1 部門目標

多職種と協働し、患者の特性を捉えた質の高い看護を提供する。

2 業務体制・スタッフ

外来部門は、内視鏡室、化学療法室、放射線治療、4科外来（整形外科、形成外科、脳神経内科、脳神経外科）、中央処置室を担当し、看護を実践している。また、夜間・休日の救急外来は、ICUと協働している。

平成31年3月現在、看護職員は18名であり、その内訳は看護師長1名（兼務）、主任看護師1名、看護師17名（常勤13名、非常勤4名）である。

3 業務実績

平成31年2月28日現在、外来診療実日数は224日だった。夜間の救急受診患者数は5015名だった。検査・治療部門では、内視鏡件数が4817件、化学療法件数が1272件、放射線治療件数が1854件だった。また、中央処置室の利用患者数は1882名だった。緩和ケア外来受診患者数は156名、がん看護外来患者数は75名だった。

4 1年間の総括

自部署では、自分の看護実践を他者と共有することで看護の質向上へつながると考え、「内省」に取り組んだ。これにより、看護師は自己肯定感を得ることができ、また経験を言語化できていない現状に気づくことができた。また、内視鏡室では、遅出勤務による勤務体制の調整や洗浄業務の委託、診療材料のセット化、コスト処理の簡素化（バーコード化）、リーダー業務の簡略化に取り組み、マンパワーを増やすことなく、内視鏡件数を増加させることができた。

5 今後の目標

自部署は、初見の患者や短時間の患者との関わりから、患者のリスク評価が必要な部署である。経験知を形式知として表現出来るように能力向上に努め、患者の安全を担保していくことが望まれる。今年度、内視鏡室で行った業務改善の取り組みを活かし、5S活動による業務の統一を図り、化学療法室等の業務改善を行っていきたい。